

平成 18 年度

血液事業担当者会議資料

日本赤十字社

年度別赤血球在庫の推移（全国集計）

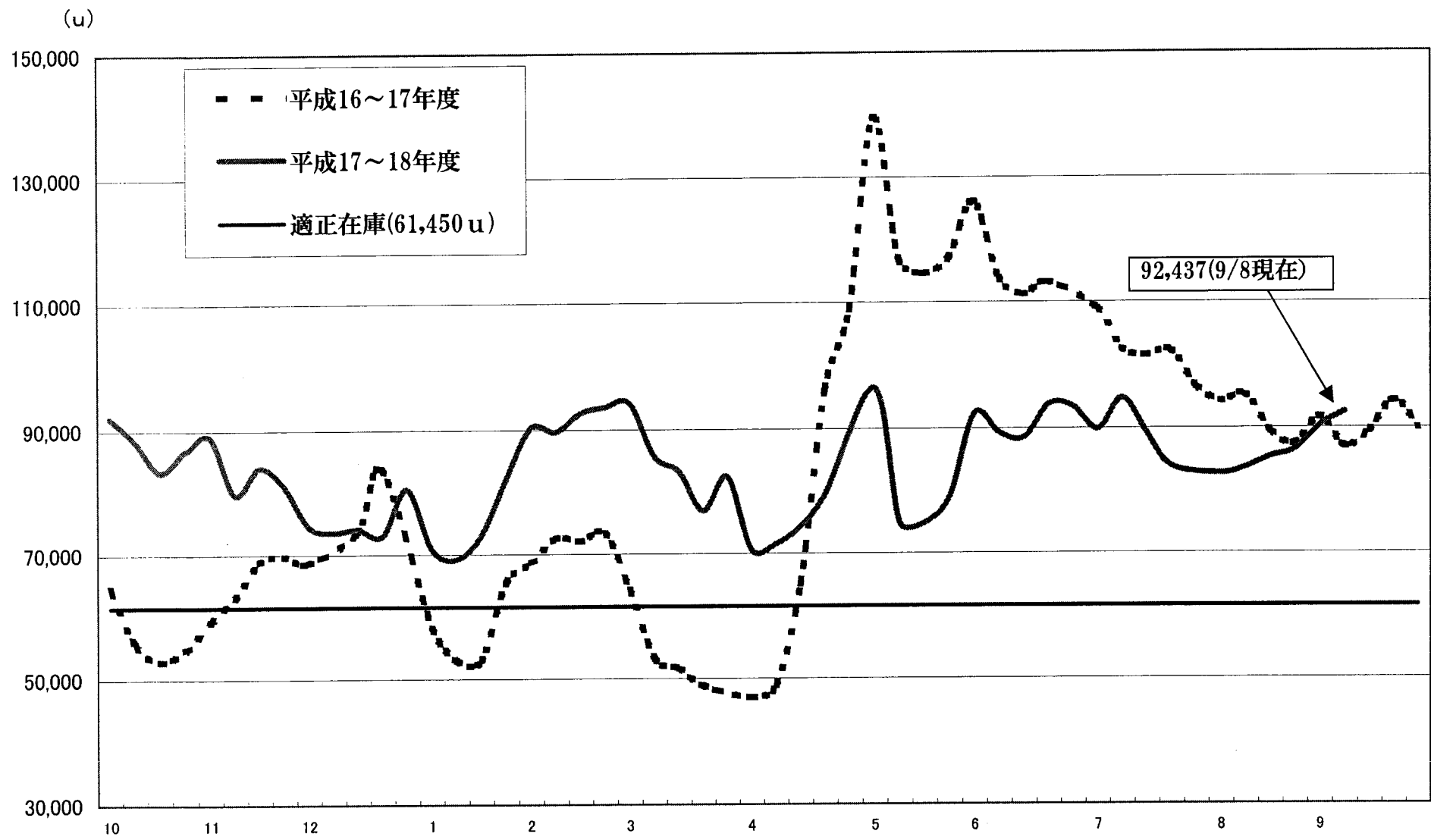


Table with 4 main columns: センター名, 血液型, 赤血球製剤(照射血倉), and センター名, 血液型, 赤血球製剤(照射血倉). It lists inventory data for various blood centers across Japan, including北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島, 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 新潟, 山梨, 富山, 石川, 福井, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知, 三重, 鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 愛媛, 高知, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄, and 全国. Each row includes blood type (A, O, B, AB), inventory status (適正在庫数, 実在庫数), difference (差), and inventory rate (保有率).

平成17年度献血・供給状況

1. 献血実績

採血方法	平成16年度 (A)		平成17年度 (B)		増減本数 (B)-(A)	対前年度比 (B)/(A)	
	本	%	本	%			
採血 成分採血 本数	200mL	1,061,542	19.6	983,509	18.8	△ 78,033	92.6
	400mL	2,671,620	49.4	2,775,203	53.0	103,583	103.9
	計	1,675,888	31.0	1,479,458	28.2	△ 196,430	88.3
	PPP	891,175	53.2	699,691	47.3	△ 191,484	78.5
	PC	784,713	46.8	779,767	52.7	△ 4,946	99.4
	計	5,409,050	100.0	5,238,170	100.0	△ 170,880	96.8

・全血に占める400mLの割合・・・ 73.8% (前年度 71.6%)

2. 供給実績

(1) 管内供給(換算本数)及び血小板供給内訳(換算本数)

区 分	平成16年度 (A)		平成17年度 (B)		増減本数 (B)-(A)	対前年度比 (B)/(A)	
	本	%	本	%			
管内 供給	全血製剤	8,171	0.0	5,411	0.0	△ 2,760	66.2
	赤血球製剤	5,760,124	34.6	5,811,325	35.5	51,201	100.9
	血漿製剤	3,041,362	18.3	2,876,511	17.6	△ 164,851	94.6
	血小板製剤	7,815,025	47.0	7,674,914	46.9	△ 140,111	98.2
	計	16,624,682	100.0	16,368,161	100.0	△ 256,521	98.5
血 小 板 内 訳	15以上	1,967,405	25.2	1,895,435	24.7	△ 71,970	96.3
	10	5,762,220	73.7	5,686,230	74.1	△ 75,990	98.7
	5	83,555	1.1	93,040	1.2	9,485	111.4
	2以下	1,845	0.0	209	0.0	△ 1,636	11.3
	計	7,815,025	100.0	7,674,914	100.0	△ 140,111	98.2

・全血製剤+赤血球製剤の対前年度比・・・ 100.8%

(2) 血漿分画製剤供給実績

区 分	平成16年度 (A)	平成17年度 (B)	増減本数 (B)-(A)	対前年度比 (B)/(A)
クロスイトM (250)	6,689 本	5,631 本	△ 1,058 本	84.2%
クロスイトM (500)	38,641 本	35,504 本	△ 3,137 本	91.9%
クロスイトM (1000)	73,617 本	77,411 本	3,794 本	105.2%
アルブミン (20%20ml)	13,834 本	10,834 本	△ 3,000 本	78.3%
アルブミン (20%50ml)	325,960 本	279,902 本	△ 46,058 本	85.9%
アルブミン (25%50ml)	194,037 本	230,981 本	36,944 本	119.0%
クロスイトM1000単位換算	94,610 本	96,571 本	1,961 本	102.1%
アルブミン20%50ml換算	574,040 本	572,962 本	△ 1,078 本	99.8%

(3) 血漿分画製剤用原料確保量(単位:リットル)

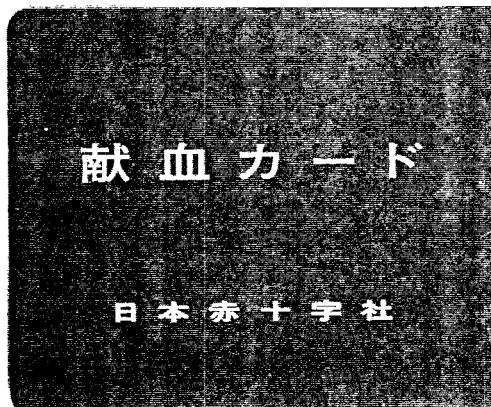
区 分	平成16年度 (A)	平成17年度 (B)	対前年度比 (B)/(A)
計 画	941,404	904,569	96.1%
実 績	942,174	945,209	100.3%
達 成 率	100.1%	104.5%	

献血カードについて

1. 献血カードの導入にあたって

- ・4桁のパスワードを献血カード内に保有することによって、献血者ご本人の確認をより早くスムーズに行うことができます。
- ・献血手帳（紙型）と比較し、携帯しやすいサイズ（運転免許証と同一サイズ）となり耐久性も高まります。
- ・次回献血可能日を、毎回自動的に書き換え、印字しますので、次回はいつから献血できるのか確認しやすくなります。
- ・名前、生年月日、住所等を最新の情報に書き換えますが、カード表面にはカタカナの氏名以外、個人を特定する情報は印字いたしませんので安全です。

(表面)



(実寸大)



2. パスワード登録のお願い

献血カードを発行する際に、4桁の暗証番号（パスワード）を入力して頂きます。次回以降の献血の際には暗証番号が必要となりますので、暗証番号をお忘れにならないようお願いいたします。

3. カード印字情報の解説

(裏面)

献血ありがとうございます

99-99999999

ケンケツ
カードタロウ

献血回数：100回 **AB+**

H17.05.01 400mL ○○県 3
H18.01.01 400mL ○○県 2
H18.10.01 血小板 △△県 1

【献血方法別の次回献血可能日】

200mL H18.10.15
400mL H18.10.15
血漿 H18.10.15
血小板 H18.10.15

表彰・顕彰：99 金色 /H18.10.01

○○県赤十字血液センター
999-999-9999

■次回献血の際は、このカードを必ずご持参ください。
■献血のお問合せ等は、上記赤十字血液センターへお寄せください。



磁気カードですので、カード内には名前、生年月日、住所、暗証番号などの個人情報記録されていますが、解読できないよう暗号化しておりますので、献血以外のシステムでは情報を見る事が不可能です。

献血者コード
(コンピュータ上で管理している献血者一人ひとりの番号)

献血者カナ氏名(姓)
献血者カナ氏名(名)

血液型ABO式、Rh式

直近3回分の献血履歴
(左から献血年月日、献血方法採血センター名、本人確認区分)

献血方法別の次回献血可能日
※但し体重は献血方法別に採血基準で定められています。

400mL献血は男女とも55kg以上
200mL献血、成分献血は男性43kg以上、女性40kg以上

献血表彰・顕彰の記録(最新)
(左から表彰センターコード、表(顕)彰名 /表彰年月日)

最新献血センター名
最新献血センターの電話番号

**問診について
ご協力をお願いいたします。**

以下のヒト胎盤(プラセンタ)由来製剤の注射薬は、日本で承認されている医療用の医薬品で、肝臓病・更年期障害等に使用されていますが、美容形成(シミ・シワ・ニキビ等)にも一部使われていることも知られています。

プラセンタの注射薬の使用と関連したvCJDの発生は報告されていませんが、vCJDという病気について解明されていないことが多く、また、現在の科学的な検査では輸血時に検査ができません。

そこで、プラセンタの注射薬も、理論上のリスクが否定できないため、vCJDの感染の恐れがないとは言えないことから、vCJDの感染リスクをできる限り少なくするために、日本赤十字社では、献血時に慎重な予防的対応を行うこととしました。

つきましては、輸血を受ける患者さんのために、過去にプラセンタの注射薬を使用したことがある方からの献血を、当面ご遠慮いただいておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

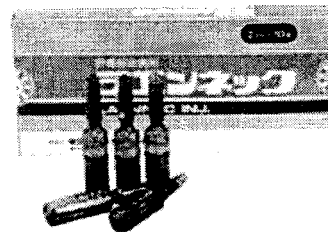
以下の注射薬を使用された方は
献血をご遠慮ください。

以下の注射薬でなくても「プラセンタ」の注射薬を使ったことに心当たりのある方は、ご相談ください。

1. 名称: メルスモン(注射薬)
〈効能/効果〉
更年期障害・乳汁分泌不全



2. 名称: ラエンネック(注射薬)
〈効能/効果〉
慢性肝疾患における肝機能の改善



上記に該当する方は、「問診票の質問事項9」に「はい」とお答えください。



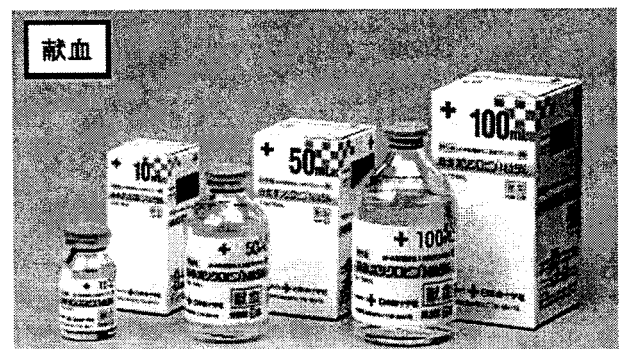
報道機関各位

日赤ポリグロビン[®]N注5% 販売開始

血液製剤の国内自給と安定供給の確保に貢献

日本赤十字社は、国内献血由来の静注用人免疫グロブリン製剤「日赤ポリグロビン[®]N注5%」（液状製剤）を平成18年8月28日（月）から販売することとなりました。

本剤は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に基づき、国が推進する血液製剤の国内自給に貢献する目的で日本赤十字社が製造技術を導入し、日本国内の献血血液を原料として製造・販売するものです。



日赤ポリグロビン[®]N注5%は、コーンの低温エタノール分画法により精製した人免疫グロブリンGをpH4（凝集物を分離又は生成を回避する条件）で製剤化した液状の静注用人免疫グロブリン製剤です。また、TNBP/コール酸ナトリウムによるS/D処理及びpH4条件下での液状インキュベーション処理によりウイルスを不活化しています。さらに、純度98%以上と高純度で、副作用の原因となる重合物が少なく、生体内にある人免疫グロブリンGと同様の非修飾・完全分子型の製剤です。

【お問い合わせ先】

日本赤十字社 企画広報室広報 大脇 市川 藤浪 電話03(3437)7071

【本剤に関する詳細のお問い合わせ】

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

電話03(5534)7506

平成18年9月14日
日本赤十字社

献血者健康被害救済制度について

1. 献血者健康被害救済制度

献血時の採血によって健康被害が発生し、医療機関への受診が必要な場合に日本赤十字社が医療費、医療手当、障害給付などの給付を行い、献血者が安心して献血に参加できるための救済制度である。

2. 体制整備の留意点

- ・ 献血者の保護に努めること。
- ・ 健康被害の発生の予防、再発防止に努めること。
- ・ 献血者に対し誠意をもって対応すること。
- ・ 迅速性、公平性及び透明性を確保すること。

3. 体制整備の検討事項等

- ・ 献血者の健康被害に対する救済給付は、献血者の申請（請求書）に基づき行う。
- ・ 献血者の健康被害に対する給付は、原則として国の示す基準等を活用し、日本赤十字社が給付内容を決定するが、因果関係、障害の程度等について判断が困難な健康被害については、第三者の意見を聴くなどした上で、給付決定に先立ち、厚生労働省に対し協議することができる。
- ・ 支給不支給の根拠を、献血者に説明するとともに、決定の結果に不服がある場合は厚生労働省に対して申し出ることができる旨を説明する。
- ・ 日本赤十字社は献血者から支給不支給の決定について不服の申し出があった場合は、誠実に対応する。

4. 献血者健康被害救済制度への対応

(1) 献血者健康被害救済手順書の作成

- ・「献血者健康被害救済手順書」を制定し、各赤十字血液センター及び採血所（献血ルーム等）に配布する。

(2) 献血者向け周知用パンフレット等（案）の作成

- ・献血者健康被害救済制度の内容、掲示用ポスター、Q&A、請求の手引等を作成する。

(3) 担当者研修会の実施

- ・献血者事故対応担当者等の研修会の実施
請求書受理から本部への依頼等にかかる事務手続きについて、担当者への研修を実施する。

(4) 献血者健康被害救済制度のシステム構築

- ・ 献血者健康被害発生状況登録・管理システム
健康被害発生事例の詳細を登録し、発生状況や背景となる可能性の事象についてデータベースに登録し、一元管理する。
- ・ 献血者健康被害判定支援システム
救済対象者の対応に差が生じないように、申告された各ケースについて判定に必要な情報を管理し、判定結果を参考情報として示すことが可能なシステムを構築する。

5. 献血者健康被害救済制度・給付業務フロー図（案）

- ・別紙

献血者健康被害救済制度・給付業務フロー図（案）

